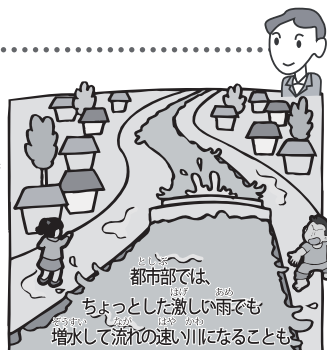


気になる水循環(11) ～水循環 Q&A～

水循環 Q&A では、水循環に関する身近な疑問について、関係機関の方に回答をいただきます。今回は、埼玉県立川越高等学校の生徒さんから寄せられた「水循環」に関する質問について、公益社団法人雨水貯留浸透技術協会の方に回答をいただきました。

Q 川で遊ぶ時、気をつけることは何ですか？

A 都市部を流れる河川で遊ぶ場合に、都市化による水循環の変化に注意が必要です。舗装された道路や住宅、商業ビル、マンションなどの建物が密集していて、また雨水排水路が整備されているような都市化した流域に集中豪雨があると、降った雨が、途中で溜まったり、地下に浸透することなく、一気に川に流れ出るために、ちょっとした激しい雨が降り始めるとすぐに増水して危険な状態になる可能性が高くなっています。雨が降り始めて、大雨になると判断されるような時は、すぐに遊びをやめて、川から避難しましょう。



イベントカレンダー

荒川流域再生シンポジウム&みずかけ“サ”論

報告内容

開催日時 3月16日(日)
12:30 開場 / 13:00 開会 / 16:40 終了
開催場所 国立女性教育会館
(東武東上線「武蔵嵐山駅」徒歩10分)
参加費 無料
問い合わせ 携帯 / 090-7804-5722 鈴木勝行
メール / k_suzuki@pk2.so-net.ne.jp

- ・「2013年度のアユ溯上環境調査の結果と5年間の調査結果報告」
 - ・「2013年度荒川流域一斉水質調査の結果報告」
 - ・「新河岸川水系でのアユ復活への取組み」
 - ・「入間川における魚道設置事業について」
- 主催：NPO 法人荒川流域ネットワーク

事務局だより

第4回連絡会が開催されました

1月28日(火)に第4回新河岸川流域川づくり連絡会が開催されました。第4回連絡会では、勉強会として清瀬市の方に参加いただき、清瀬市が取り組む緑地保全や雨水浸透施設の助成制度について紹介していただきました。

後半には、「第9回川でつながる発表会」の進捗や運営体制の確認をしました。また、今年度の連絡会一年の活動の振り返りと次年度の活動に向けた活発な意見交換が行われました。



第4回連絡会のようす

川づくり連絡会に参加してみませんか？

新河岸川流域川づくり連絡会は、原則第2火曜日または第2金曜日で年4回程度開催します。参加希望の方は、下記連絡先までお問い合わせください。(開催場所はお問い合わせ時にお知らせします。)

しんぶん「里川」掲載情報を大募集します！

各流域や地域での活動報告やイベント情報を募集しています。身近な情報などをお手紙またはFAX・メールにて下記連絡先までお寄せ下さい。

連絡先

新河岸川流域川づくり連絡会 事務局
(国土交通省関東地方整備局 荒川下流河川事務所 調査課内)
〒115-0042 東京都北区志茂5-41-1
TEL 03-3902-2311 FAX 03-3902-2346
URL <http://www.ktr.mlit.go.jp/arage/>
E-mail arage-shingashi@ktr.mlit.go.jp

THE SHINGASHI BASIN NEWS
新河岸川流域しんぶん



発行●新河岸川流域川づくり連絡会(荒川下流河川事務所 調査課内)
住所●東京都北区志茂5-41-1 TEL03-3902-2311 FAX03-3902-2346
発行日●平成26年(2014)3月●日

VOL. 73



切り絵 毛利将範

目次

- P2~3 第9回川でつながる発表会の開催報告
- P4 連載：気になる水循環(11)水循環 Q&A イベントカレンダー、事務局だより
- P5 特集：流域一体で取り組もう！ みんなで考える水害を減らす方法


外に出ると春の心地よい風を感じることができるとかと思えます。そんな日には、川辺を散歩してみると気持ちいいかもしれません。今号では、2月に川越市立仙波小学校で開催された第9回川でつながる発表会の開催報告をします。連載では、埼玉県立川越高等学校の学生さんからの水循環に関する質問とその回答を掲載します。特集では、水害を減らすことをテーマにアンケート調査や川でつながる発表会でみなさんに頂いた意見を紹介します。

第9回川でつながる発表会の開催報告!!


2月9日(日)に川越市立仙波小学校で開催された「川でつながる発表会」は今回で9回目となります。まだ前日の雪が残る中、約90名の方々にご参加いただきました。各参加団体が行った新河岸川流域の川や自然に関する観察結果や研究成果の発表は、今年も力作ぞろいで、来場者は熱心に耳を傾けていました。

時間	内容	
10:00	受付	
	開会	前日までの大雪が残っていたため、開会を15分遅らせての開催となりました。
10:45	挨拶	 午前の部(現地見学会)開会に先立ち、かわごえ環境ネット 武田氏より「多くの関係者の協力を得て、新河岸川の源流域である川越で発表会が開催できることがうれしい。」という挨拶がありました。
10:50	現地見学会	大雪のため現地見学会は中止となりましたが、会場で新河岸川に関する講演が行われました。参加者は、普段はなかなか聞くことができない新河岸川の成り立ち、人と川との関わりの変遷や、使用した後の下水処理の話について興味深そうに耳を傾けていました。 
12:00	昼食	
13:00	挨拶	午後の部(発表会・交流会)開会に先立ち、川越市立仙波小学校校長より「川越市立仙波小学校を会場に選んでいただき感謝している。今回の発表会を含めて交流を深めていきたい。」という挨拶がありました。
	発表(前半)コメント質問	発表会(前半)はグリーン・フォレスト・ネットワーク所沢/早稲田大学、法政大学、川越高等学校から流域内の活動成果について発表がありました。 
13:55	交流会	川越市河川課 宮川氏より、自然の中での水循環、人々の生活が関わっている水循環について説明がありました。また、小型雨水貯留槽の設置等、仙波小学校で取り組まれている総合治水の取り組み事例の紹介がありました。 
14:05	交流会	展示クイズラリー 参加者同士の交流を促進する、様々な団体からの出展がありました。中には、新河岸川で見られた鳥の写真、雨水貯留浸透マスなどユニークな展示物もあり参加者の注目を集めていました。 
14:35	発表会	発表会(後半)は明法中学高等学校、仙波小学校から流域内の活動成果についての発表、ふじみ野少年少女合唱団/バーベナコーラス/赤い靴から川をテーマにした合唱による発表がありました。 
15:20	交流会	表彰状授与 国土交通省荒川下流河川事務所長より、各発表校の代表者へ表彰状が授与されました。表彰状授与の際は、少々緊張気味の顔つきも受賞後はみなさんとても満足そうでした。 
	講評	 最後に、柳瀬川流域ネットワーク 宮本氏から「今回の発表会に参加して、流域への思いをつなげることができたと感じた。今後は、相互的な交流をもっと進めていけるように新たな取り組みを行って行きましょう。」という講評がありました。
16:00	閉会	恒例の記念撮影は、学校や世代を越えてつながる一体感を感じさせる一コマでした。 
	記念撮影	悪天候の中、多数のご参加また熱心にご聴講いただき、ありがとうございました。


1 グリーン・フォレスト・ネットワーク所沢 / 早稲田大学理工学術院

◆緑の森博物館と樽井戸川
樽井戸川の源流域に位置する「さいたま緑の森博物館」で、植物や昆虫の観察会や、雑木林での下刈りや落ち葉かき等の活動について発表がありました。樽井戸川は現在、水量が多いときほど水質が良くなっており、源流域を保全し水源をかんようすることが樽井戸川のさらなる水質の向上に繋がることについて説明がありました。


2 法政大学水文地理学研究室

◆水環境の現状に関する水文地理学的研究
～新河岸川流域南部を中心として～
2013年度の「全国身近な水環境一斉調査」による採水試料のEC、TOC、主要溶存成分の分析を通じた、水環境の地域特性の把握について発表がありました。水質の変化や水質項目同士の関係から、人間活動による影響等について示されるとともに、今後、精度を高めていくための調査地点のあり方等について提案がありました。


3 埼玉県立川越高等学校

◆生物指標を用いた環境調査～水生昆虫から見た入間川～
地学部、生物学部から、入間川の地形・地質の特徴や簡易水質調査、水生昆虫調査について発表がありました。調査の中ではアケボノゾウの化石を発見したそうです。水生昆虫は水質や流速に応じて生息する種類が違いため、水生昆虫の調査を通じてその場所の環境が把握できること、調査を通じた水質の評価について説明がありました。


4 明法中学高等学校 科学部

◆23年度 水質調査年間記録報告
野火止用水で実施している水質調査について発表がありました。調査では、水の透明さやゴミの量も調べています。環境がいいと感じたところ、悪いと感じたところを、水辺への近づきやすさやゴミの量との関係などから考察した結果について説明がありました。また、水質は空堀川の調査結果とも比較し、水質の特徴を調べていました。

5 川越市立仙波小学校

◆水質の謎を追って
新河岸川の水質などを調べて、川の水をきれいにするための取り組みについて発表がありました。生活で使用する水は、きれいにするために多くの努力が行われています。水を無駄使いしないこと、汚れた水を出さないことが大事です。フライパンの油のふきとり等、日々の生活でできる取り組みを調べた結果について説明がありました。

6 ふじみ野少年少女合唱団 / バーベナコーラス / 赤い靴

◆つながる～不老川のうた～
「ふるさと」、「つながる～不老川のうた～」の合唱発表がありました。不老川のうたを作詞作曲した佐々木氏は、新河岸川流域ではじめて釣りをしたのが不老川。最初は汚かった印象ですが、川の水をきれいにするために流域が一体となって取り組んでいることを知り、感銘を受け、作詞作曲したそうです。子どもと大人と一緒に合唱したことで、世代を超えた「つながる」発表会となりました。

流域一体で取り組もう！ みんなで考える水害を減らす方法

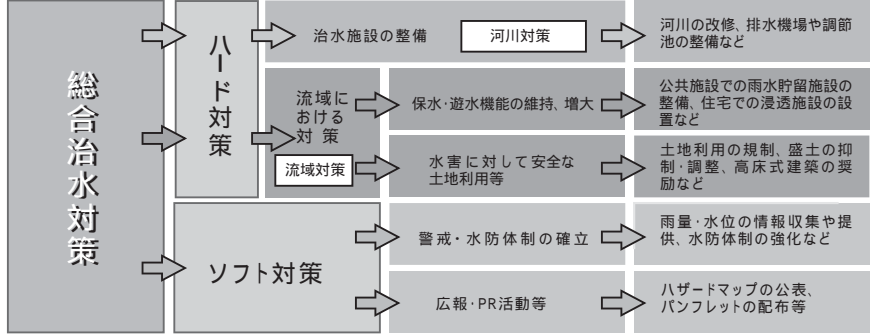


新河岸川流域について



総合治水対策について

そこで昭和57年以降、新河岸川流域では「雨をすぐに流さないような施設の設置など(ハード対策)」と「浸水する可能性がある場所を事前に住民に知らせるなど(ソフト対策)」を組み合わせた「総合治水対策」を進めています。



水害を減らすために学生(小・中・高生)に伝えるみんなのアイデア

総合治水対策を進めるにあたり、ハザードマップなどの行政情報を見る機会が少ない学生に情報を伝えることは難しいです。しかしながら、流域一体で取り組むには学生たちにも水害を減らす方法を知ってもらうことは重要です。そこで新河岸川流域に住んでいる方々を対象に水害を減らす取り組みについて学生に伝える方法を聞きました。みなさんご自身の経験してきたことを中心にwebアンケートなどでアイデアを頂きましたので、紹介します。

水害の模型を活用した学校での授業をする。水害経験者による授業をする。

有識者

森林を残すことの必要性を伝える講演会を開催する。土木建設業の災害史を伝える現地見学会を開催する。

大学生

社会科見学を活用し現場見学をさせる。水の安全について考えてもらう。

先生

実際に水害を減少させるための取り組んでいる現場を見学する。川に入って、川の存在の重要性を感じてもらう。

民間企業

河川のモニタリング会を開催する。家庭で情報啓蒙をする。

その他

夏休みを活用してイベントに参加させる。義務教育で教える水害を減少させる取り組みをグループで検討する。水害を減少させる取り組みをテレビCMで放送する。

官公庁

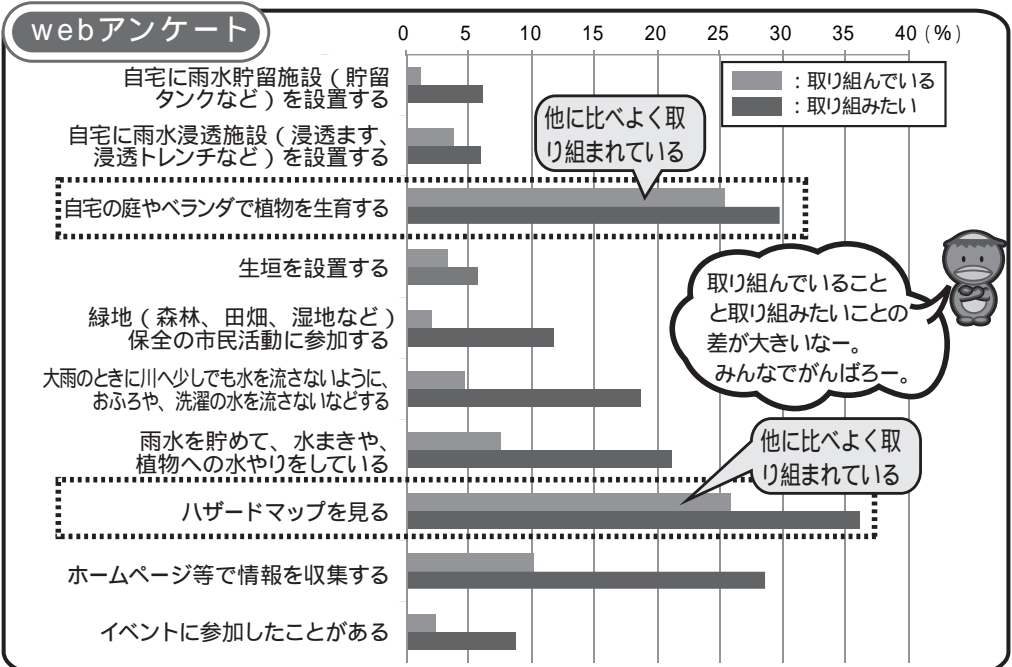
災害史、河川の変遷を伝承する。河川の役割を伝える授業をする。

コメンテータ

学校の授業で教えるというアイデアが多く、小さい頃に体験学習などを通じて教えてもらったことって確かに印象に残りますね。

水害を減らすためのアクション

新河岸川流域に住んでいる方々を対象に水害を減らすための行動について、実際に取り組んでいること、取り組みたいことをwebアンケートなどで聞きました。



川でつながる発表会

平成26年2月9日に開催された「第9回川でつながる発表会」では、みなさんのアクションを自由回答形式で聞きました。駐車場のアスファルトをはがしたいなど、具体的な取り組みについて回答された方もいました。

大人

- 川を知る。
- 川の清掃をする。
- 水が地中にしみこむ工夫のため、駐車場のアスファルトをはがしたい。
- 普段から川の様子を見て、意識を高める。

子ども

- 大雨の時は水道の利用を控える。
- 地域の防水対策の仕組みについて勉強し、将来の水害時の備えにしたい。
- 水害における具体的な対策などを話し合いたい。